

遠賀川における災害対応について

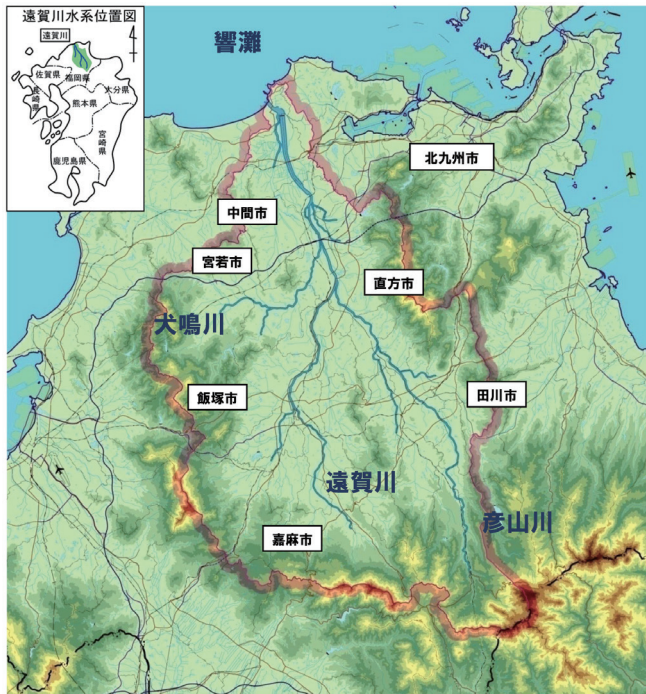
—— 流域治水を推進

国土交通省 九州地方整備局

遠賀川河川事務所長 牟田 弘幸



図-1 遠賀川流域図



1. はじめに

遠賀川は福岡県北部に位置し、その源を福岡県嘉麻市の馬見山に発し、穂波川・彦山川・犬鳴川等の支川を合わせ響灘に注ぐ、幹川流路延長61km、流域面積1,026km²の一級河川です〔図-1〕。

流域内関係市町村は7市14町1村に及び、嘉麻市・田川市・飯塚市・直方市・宮若市・中間市や北九州都市圏を擁しており、流域内人口は約62万人、流域内人口密度は九州内一級水系で最大(約600人/km²)となっています。

遠賀川の水は古くから続く稲作文化を支えているだけでなく、近代に

においては流域内で産出されていた良質な石炭の輸送路として活用されるなど、人々の生活・文化に深く結びついてきた歴史があります。

2. 近年の出水概要

遠賀川では近年大規模な出水が頻発(平成13年6月・平成15年7月・平成21年7月・平成22年7月・

平成30年7月)していて、発生流量も増大傾向にあります〔図-2〕。その都度発生する被害に悩まされていますが、例えば平成15年出水では、主に飯塚市街地で大規模な被害が発生し、嘉穂劇場(国登録有形文化財)が浸水被害を受けるなど大災害となりました〔図-3〕。

3. 床上浸水対策特別緊急事業

平成15年の出水対応では「遠賀川(飯塚地区)床上浸水対策特別緊急事業」により集中的に河川整備を実施し、平成20年度に完成しています。平成30年の出水では、降雨量としては平成15年の約1.6倍となりましたが、浸水被害を大幅に軽減することができました〔図-4〕。一方で、近年降雨量が増大傾向にあり、このような河川管理者による対応だけで「被害解消」に至ることは困難な状況となりつつあることが新たな課題となっています。

4. 流域治水プロジェクト2.0

遠賀川でも流域のあらゆる関係者が協働し治水対策を行っていく「流域治水」を進めています。流域治水については令和3年3月に「遠賀川流域治水プロジェクト」を策定し取り組みを実施しているところです。

ところが、将来降雨量の更なる増大が予測され、今後水災害の頻発化・

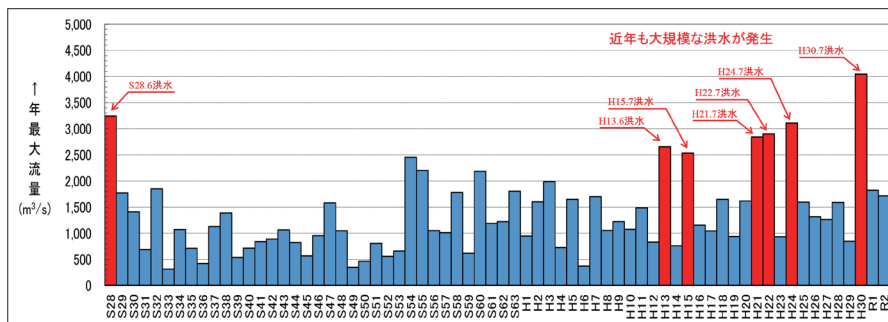


図-2 年最大流量の推移 (日の出橋観測所 遠賀川 18.7k)



図-3 飯塚市街部浸水状況（平成 15 年 7 月）

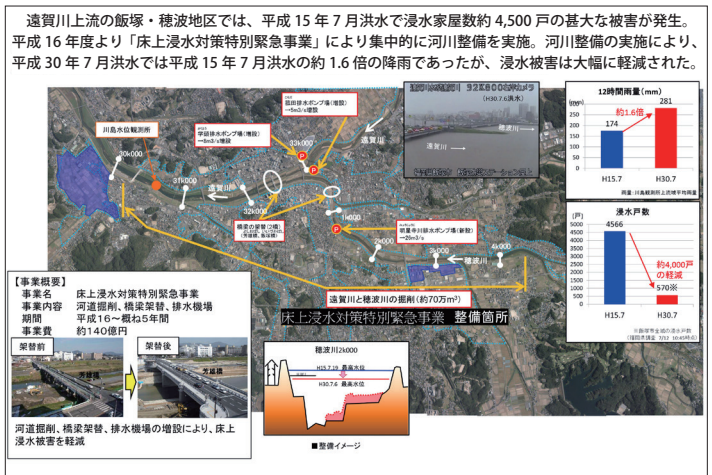


図-4 遠賀川（飯塚地区）床上浸水対策特別緊急事業の効果

激甚化が進むと言われるようになってきました。これらへの対応のため、流域治水の取組を更に加速化・深化していく必要が生じたことを受け、令和 5 年 9 月に流域治水プロジェクトを「遠賀川流域治水プロジェクト 2.0」として更新しています。このプロジェクト 2.0 は、気候変動の影響を考慮し、河川及び流域での対応方針を反映した内容となっています。

5. 令和 5 年 7 月出水と緊急対応

令和 5 年 7 月 7 日からの出水では、遠賀川水系彦山川上流部で大雨となりました。7 月 10 日に彦山川の添田水位観測所において計画高水位相当の水位を記録し、添田町庄地区において大規模な護岸崩落が発生しました。あわや民家が流されるか、というような災害でしたが、被災当日夕方から緊急復旧に着手し、7 月 16 日にこの工事を完了させることができました [図-5]。

これは本年度出水期を乗り切るための仮復旧ですが、当事務所と災害協定を締結している建設会社により昼夜 24 時間体制で施工して頂いたことで発災後 1 週間以内での完了に至り、このおかげで何とか今出水期を乗り切ることができました。対応頂いた建設会社の皆様には大変感謝しております。現在は本復旧に向け準備を進めています。

6. おわりに

今年は遠賀川流域で甚大な被害をもたらした昭和 28 年の堤防決壊から 70 年、平成 15 年の集中豪雨から 20 年を迎えます。今後は流域住民の方々にも過去の水害を振り返って頂き、流域治水への理解を深めて頂く取り組みを進めていきたいと考えています。

○被災当日の 16 時 00 分より工事着手し、昼夜 24 時間体制にて 7 月 16 日の 9 時 00 分に完了

緊急復旧工事完了



被災状況（7 月 11 日撮影）



復旧完了（7 月 16 日 9 時 00 分撮影）



復旧状況（7 月 11 日夜間撮影）



資材運搬状況（7 月 13 日撮影）

図-5 彦山川添田町庄地区 緊急復旧工事について